マツダ株式会社

株主の皆様へ

第149期 株主通信

平成26年4月1日～平成27年3月31日

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。ここに、当社グループの第149期（2014年4月から2015年3月まで）の業績ならびに今後の業績見通しについてご報告申し上げます。

2015年6月
代表取締役社長兼CEO（最高経営責任者）
小飼 雅道

当期の概況

当期は原油価格の下落、新興国経済の減速や不安定な為替相場などもありましたが、SKYACTIV技術を梃子にした構造改革を推進し、マツダらしい魅力ある商品とサービスの提供を通じたブランド価値の向上に取り組み、着実な成長を図ることができました。これも株主の皆様のご協力・ご支援のお陰と心より感謝申し上げます。

商品面では、SKYACTIV技術と魂動デザインを採用した新世代商品の第４弾となる新型「マツダ デミオ（海外名：Mazda2）」を導入しました。国内外で高い評価をいただいており、販売も好調に推移しています。さらに2015年２月には新世代商品の第５弾として、新型コンパクトクロスオーバーSUV「マツダ CX-3」の販売を日本からグローバルに開始しました。その結果、当期のSKYACTIV搭載比率は74％まで増加し、台数拡大、収益改善、ブランド強化に貢献しました。

また、国内では、新世代クリーンディーゼルエンジン「SKYACTIV-D」搭載車の累計販売台数が10万台を突破し、国内ディーゼル乗用車市場の成長を牽引しています。当社のSKYACTIV技術・商品の魅力を多くのお客様にご理解・ご支持いただき、大変うれしく受け止めております。

生産面では、「グローバル生産体制の再構築」を着実に進めています。メキシコ新工場での当期の生産台数は、14万台と計画通り進捗し、エンジン機械加工工場も稼働しました。また、タイの新トランスミッション工場では、2015年1月に、「SKYACTIV-DRIVE」の量産を開始し、同工場に併設してエンジン工場の建設も進めており、2016年３月期第３四半期から「SKYACTIV-D 1.5」の生産を開始する計画です。

当期の業績として、グローバル販売台数は「マツダ CX-5」や「マツダ アクセラ（海外名：Mazda3）」に加え、新型「デミオ」の導入効果などにより、前期比5.0％増の139万７千台と、過去20年で最高の販売台数を達成しました。売上高は、SKYACTIV搭載車のグローバルでの販売拡大などにより３兆339億円（前期比3,417億円増加）、営業利益は台数構成の改善や「モノ造り革新」による継続的なコスト改善などにより2,029億円（同208億円増加）、当期純利益は1,588億円（同231億円増加）となりました。

配当につきましては、当期の業績および経営環境ならびに財務状況などを勘案して決定することを方針とし、安定的な配当の実現と着実な向上に努めることとしております。当期は１株当たり10円とさせていただきました。次期の配当予想は、当期より20円増配の１株当たり30円（中間配当15円、期末配当15円）としています。

連結業績の推移

（3月期）	2014年		**2015年**		2016年	
	実績	前期比	実績	前期比	見通し	前期比
グローバル販売台数（千台）	1,331	+96	**1,397**	**+66**	1,490	+93
売上高（億円）	26,922	+4,870	**30,339**	**+3,417**	32,500	+2,161
営業利益（億円）	1,821	+1,282	**2,029**	**+208**	2,100	+71
経常利益（億円）	1,407	+1,076	**2,126**	**+719**	2,150	+24
当期純利益（億円）	1,357	+1,014	**1,588**	**+231**	1,400	△188

次期見通しおよび構造改革プランの進捗状況

次期の見通しにつきましては、「構造改革プラン」の主要施策を着実に推進し、ブランド価値のさらなる向上に向け取り組んでまいります。

商品面では、SKYACTIV技術を搭載した新世代商品の第6弾となる新型「マツダ ロードスター（海外名:MX-5）」を2015年5月より日本からグローバルに導入を開始しました。「ロードスター」は、「走る歓び」を追求するマツダのクルマ造りを象徴する商品で、新型モデルでは、「軽快感」、「手の内／意のまま感」、「開放感」を追求し、「人馬一体」の楽しさを進化させるため、100kg以上の大幅な軽量化を実現しています。新型「デミオ」および商品力を強化した「CX-5」、「マツダ アテンザ（海外名:Mazda6）」のグローバルでの通年販売貢献に加え、新型「CX-3」と新型「ロードスター」のグローバル導入、さらに2016年３月期末に導入を開始する新型「マツダ CX-9」により台数成長を図り、SKYACTIV搭載比率は85％以上になる見通しです。

メキシコ工場では、グローバルで好調なSKYACTIV搭載車の販売増に対応するため、生産台数を次期は23万台へ引き上げる予定です。また、メキシコ工場でトヨタ社向け小型車、本社工場ではフィアット・クライスラー社向けオープン２シータースポーツカーの生産・供給を開始します。

以上の取り組みなどにより、次期のグローバル販売台数は前期比6.6％増の149万台、売上高は３兆2,500億円（前期比2,161億円増加）、営業利益は2,100億円（同71億円増加）、当期純利益は1,400億円（同188億円減少）の見通しです。

構造改革ステージ2

この度、2017年3月期から2019年3月期までの新しい中期経営計画となる「構造改革ステージ2」を発表しました。これまで、2012年2月に公表した「構造改革プラン」で掲げた主要施策を着実に実施してまいりましたが、各領域では依然としてさらなる改善の余地があると考えています。

「構造改革ステージ2」では、各地域での市場・セグメントごとの需要動向、為替や原油価格などの市場動向、環境規制など事業環境変化に対応した上で、これまでの主要施策をより一層強化していくことに主眼を置き、着実な台数成長を図りつつも、事業規模拡大のみを追求するのではなく、商品・販売・生産・財務の各領域でのビジネスの「質的成長」により、ブランド価値の向上を図ってまいります。

最終年度となる2019年3月期の経営指標（為替前提USドル120円／ユーロ130円）は、グローバル販売台数165万台、営業利益率7％以上、自己資本比率45％以上、配当性向20％以上を目標としております。財務基盤の強化にあわせ、株主還元の着実な向上に取り組んでまいります。

▶「構造改革ステージ2」の内容はP4「特集」をご覧ください。

トヨタ社と業務提携に向け基本合意

当社は、2015年5月、トヨタ社と経営資源活用や、商品・技術の補完など、相互にシナジー効果を発揮しうる、継続性のある協力関係の構築に向け基本合意しました。

今後、両社で組織する検討委員会を立ち上げ、環境技術、先進安全技術といった分野をはじめとする、互いに強みを活かせる具体的な業務提携の内容の検討を開始します。

トヨタ社と当社は、これまでもトヨタ社のハイブリッドシステム技術のライセンス供与や、当社メキシコ工場におけるトヨタ社向けの小型車生産などで業務提携を行ってまいりました。この度の協業により、従来の提携の枠組みを超えて、「クルマの新たな価値創造」に向けた中長期的な相互協力を目指してまいります。

株主の皆様には、今後とも変わらぬご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

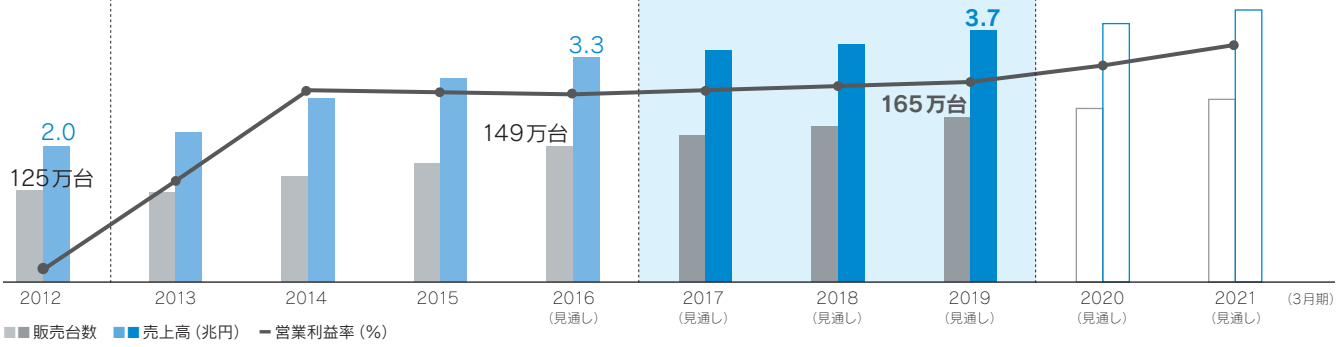
代表取締役社長兼CEO（最高経営責任者）

小飼雅道

特集　構造改革ステージ2

2017年3月期から新たにスタートする3カ年の中期経営計画「構造改革ステージ2」では、着実な台数成長を持続させながら、商品・販売・生産・財務の各領域でビジネス効率を高めるなど「質的成長」を図り、本格的なブランド価値向上に向けた取り組みを加速します。今回の特集では、「構造改革ステージ2」の主要施策についてご説明します。

	構造改革プラン（2013年3月期～2016年3月期） 構造改革による事業構造の転換	構造改革ステージ2（2017年3月期～2019年3月期） 質的成長／ブランド価値向上	次期中計（2020年3月期～） さらなる持続的成長
1 商品・開発	SKYACTIV TECHNOLOGY GEN1	● SKYACTIV商品の継続的進化 ● GEN2モデル開発・投入開始	● GEN2本格導入 ● 電気駆動強化 GEN2
2 ブランド・販売	● 正価販売と台数成長 ブランド価値向上に着手	● 販売戦略浸透に向けた 現場改革を推進	● 商品の大幅強化による 台数成長
3 グローバル生産	● メキシコ・タイ・ロシア・ マレーシアなどでの生産体制強化	● 工場稼働率最大化により 販売拡大をサポート	● 量的成長に向けた 生産能力拡充
4 財務基盤強化	● 円高環境下でも利益を創出する 収益構造への転換 ● 財務基盤の回復および復配	● 強固な財務基盤構築 ● 配当性向改善	● 成長と収益性向上の両立 ● 資本効率・ROEの向上



（注）1. GEN1：SKYACTIV Generation1、GEN2：SKYACTIV Generation2の略称
（注）2.「構造改革ステージ2」に続く次期中計（2020年3月期～）でのさらなる成長に向けた判断は、事業環境などの変化を踏まえ、「構造改革ステージ2」期間中に行います。

1 商品・開発

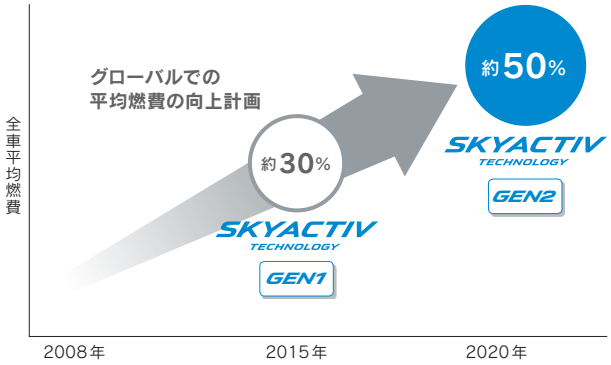
「走る歓び」と「優れた環境・安全性能」を提供する新型車4車種、派生車1車種、合計5車種を市場投入します。
開発・生産・調達が一体となったグローバル一括企画により、最適コモンアーキテクチャーを実現します。

SKYACTIV商品群の継続的進化

- 「一貫性のある技術進化」と「魂動デザインの深化」により ブランドを体現する商品を導入
- 最新のデザインおよび技術を搭載したモデルを ショールームにラインアップ

最適コモンアーキテクチャーの実現

- 次世代商品に向けた技術開発は、環境対応と安全対応に重点
- 2020年にグローバル燃費を50%改善（2008年比）を目標



2 グローバル販売・ネットワーク強化

SKYACTIV商品のフルラインアップによって販売強化を図ります。
ブランド価値を向上させる販売戦略浸透に向けた現場改革を推進します。

SKYACTIV商品フルラインアップによる販売強化

- ブランドショールームの実現
- クロスオーバー系車種の重点強化
- プロアクティブセーフティや「i-ACTIV AWD」*、「Mazda Connect（マツダ コネクト）」 などの先進機能性を訴求

現場改革の推進と営業施策の強化

- 正価販売の実現（インセンティブ抑制、ネットレベニューの向上、中古車残価改善）
- ブランド価値訴求のコミュニケーション戦略を推進
- 新世代店舗展開と販売キャパシティの拡大、大都市マーケティング強化
- カスタマーケアへのオペレーション変革とお客様のブランド体験向上
- 営業スタッフ販売トレーニングとドライビングアカデミーの展開

ブランドショールーム
関東マツダ　目黒碑文谷店

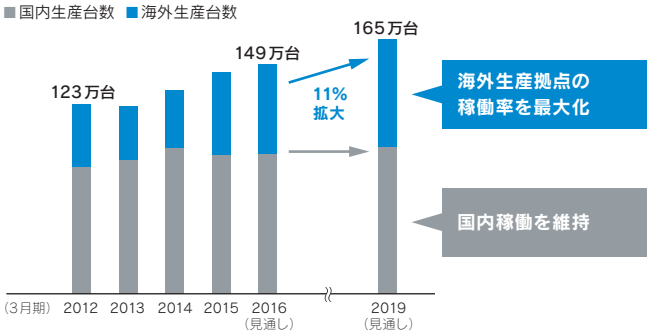
* 「CX-5」、「CX-3」、「アテンザ」、「アクセラ」、「デミオ」に搭載の「新世代4WDシステム」。マツダ独自の「前輪スリップ予兆制御」が特徴。

3 グローバル生産・コスト改善

モノ造り革新のグローバル展開によってコスト改善を加速します。
最高生産効率の追求と主要生産拠点の稼働率最大化により成長をサポートします。

- 国内で培ったモノ造り革新を全拠点に展開、グローバルサプライチェーンにも対象を拡大し、高品質・高効率なフレキシブル生産を実現
- メキシコ工場の生産効率を国内生産レベルに引き上げ
- モデルベース開発の領域を拡大し、生産領域にも本格導入することにより、開発・生産コストの低減と、さらなる品質の向上を図る

グローバル生産台数



4 財務基盤強化と株主還元

安定的で持続的な成長に向けて強固な財務基盤を構築します。
中長期的に総還元性向を高め、資本効率の向上を図ります。

安定的・持続的な成長に向けた財務基盤を構築するため、有利子負債の圧縮や自己資本の充実に取り組みます。また、経営資源を効率的に活用し、研究開発や設備投資においては資本効率の向上を意識した規律ある成長投資を実施します。

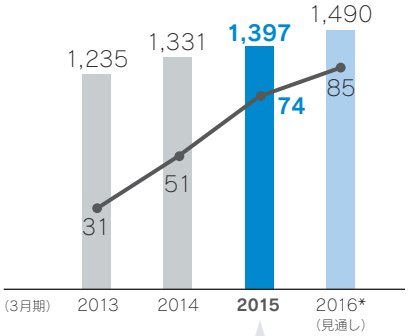
経営資源の効率的活用で、「構造改革ステージ2」期間中のROEは13～15%レベルを目指すとともに、中長期的には総還元性向を高め、資本効率の向上を図ります。

	2015年3月期		2019年3月期ターゲット
営業利益率	6.7%	>	**7%以上**
自己資本比率	35.2%	>	**45%以上**
配当性向	3.8%	>	**20%以上**

連結業績ハイライト

グローバル販売台数／SKYACTIV搭載比率

（千台／%）■■グローバル販売台数　━SKYACTIV搭載比率



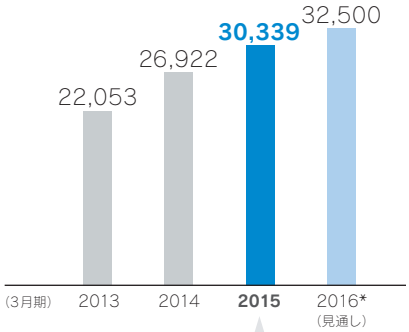
2015年3月期

グローバル販売台数 **139万7千台**

前期比 **5.0%増**

売上高

（億円）



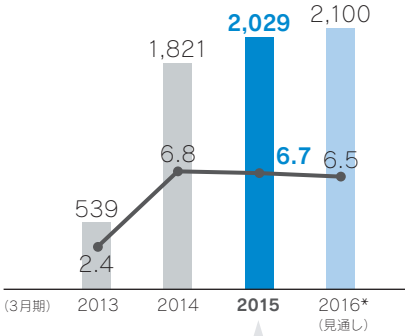
2015年3月期

売上高 **3兆339億円**

前期比 **12.7%増**

営業利益／営業利益率

（億円／%）■■営業利益　━営業利益率



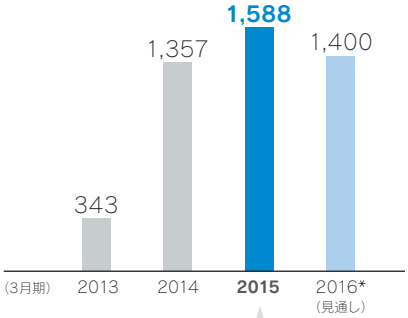
2015年3月期

営業利益 **2,029億円**

前期比 **11.4%増**

当期純利益

（億円）



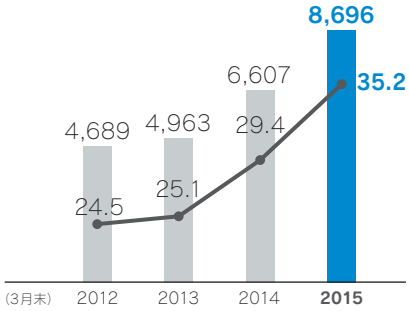
2015年3月期

当期純利益 **1,588億円**

前期比 **17.0%増**

自己資本／自己資本比率

（億円／%）■■自己資本　━自己資本比率



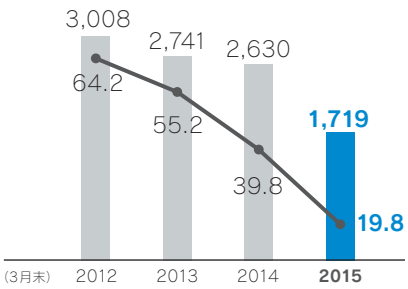
2015年3月末

自己資本比率 **35.2%**

前期末比 **5.8pt増加**

純有利子負債／純有利子負債自己資本比率

（億円／%）■■純有利子負債　━純有利子負債自己資本比率



2015年3月末

純有利子負債自己資本比率 **19.8%**

前期末比 **20.0pt改善**

* 2016年3月期は見通しです。業績見通しには、リスクや不確定要素が含まれており、実際の業績とは大きく異なる結果となる場合があります。

連結財務諸表

連結貸借対照表（要旨）

（単位：億円）

	2015/3末	2014/3末
資産の部		
流動資産	13,144	11,325
固定資産	11,589	11,135
有形固定資産	9,430	8,660
無形固定資産	294	228
投資その他の資産	1,865	2,247
資産合計	24,733	22,460

	2015/3末	2014/3末
負債の部		
流動負債	9,041	8,121
固定負債	6,779	7,571
負債合計	15,820	15,692
純資産の部		
株主資本	7,475	5,888
その他の包括利益累計額	1,221	719
少数株主持分	217	161
純資産合計	8,913	6,768
負債純資産合計	24,733	22,460

* 記載金額は億円未満の端数を四捨五入しています。

連結損益計算書（要旨）

（単位：億円）

	2014/4 – 2015/3	2013/4 – 2014/3
売上高	30,339	26,922
売上総利益	7,862	6,986
営業利益	2,029	1,821
経常利益	2,126	1,407
税金等調整前当期純利益	2,093	974
当期純利益	1,588	1,357

* 記載金額は億円未満の端数を四捨五入しています。

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：億円）

	2014/4 – 2015/3	2013/4 – 2014/3
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,045	1,364
投資活動によるキャッシュ・フロー	△955	△ 1,201
財務活動によるキャッシュ・フロー	△628	105
現金及び現金同等物に係る換算差額	33	81
現金及び現金同等物の増減額（△減少額）	494	349
現金及び現金同等物の期首残高	4,798	4,449
現金及び現金同等物の期末残高	5,291	4,798

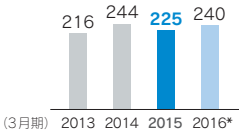
* 記載金額は億円未満の端数を四捨五入しています。

市場別ハイライト

販売台数
（千台）

日本市場

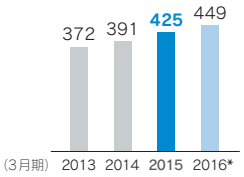
225千台
（前期比8%減）



- 当期の販売台数は前期比8%減の22万5千台
- 上期は消費税反動での大幅減も下期は新型「デミオ」投入で反転、駆込み需要のあった前年下期を上回る販売実績
- SKYACTIV搭載車は引き続き高い評価を獲得
- 次期の販売台数は7%増の24万台の見通し

北米市場

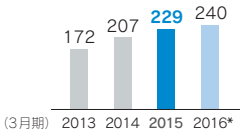
425千台
（前期比9%増）



- 当期の販売台数は前期比9%増の42万5千台
- 米国では同8%増の30万6千台。「CX-5」、「Mazda6」、「Mazda3」が牽引し、過去20年で最高の販売実績
- メキシコでは新型「Mazda3」が引き続き好調
- 次期の販売台数は6%増の44万9千台の見通し

欧州市場

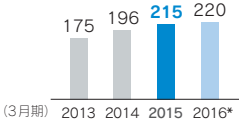
229千台
（前期比11%増）



- 当期の販売台数は前期比11%増の22万9千台
- 「Mazda3」が販売拡大に大きく貢献し、「CX-5」も引き続き好調
- 特にドイツ、英国など主要国で販売が好調
- 次期の販売台数は5%増の24万台の見通し

中国市場

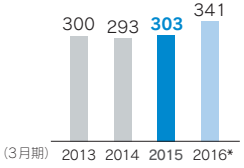
215千台
（前期比9%増）



- 当期の販売台数は前期比9%増の21万5千台
- 新型「Mazda3」、「CX-5」が販売を牽引
- SKYACTIV技術、魂動デザインを強力に訴求するブランドキャンペーンを継続実施
- 次期の販売台数は3%増の22万台の見通し

その他市場

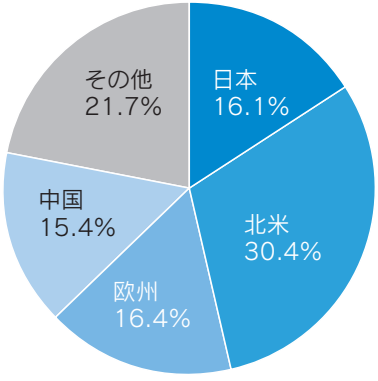
303千台
（前期比3%増）



- 当期の販売台数は前期比3%増の30万3千台
- オーストラリアではメーカー別販売で3位、シェア9%と好調
- ASEANでは需要減の影響を受けたタイ、インドネシアの販売減を、好調なマレーシア、ベトナムなどがカバー
- 次期の販売台数は12%増の34万1千台の見通し

グローバル販売台数

139万**7**千台
（前期比5%増）



* 2016年3月期は見通しです。業績見通しには、リスクや不確定要素が含まれており、実際の業績とは大きく異なる結果となる場合があります。

2014年

11月

クルマ・技術

新型「デミオ」が2014年度「グッドデザイン金賞」を受賞

「グッドデザイン金賞」は、総合的に高い評価を得た「グッドデザイン・ベスト100」の中より、特に優れたデザインに贈られる賞です。

GOOD DESIGN AWARD 2014

生産

タイでのエンジン工場建設を発表

日本、中国、メキシコに続いて世界4拠点目となる新エンジン工場では、タイ市場向けの新型「Mazda2」に搭載される「SKYACTIV-D 1.5」エンジンを組み立てます。年間生産能力は3万台で、2016年3月期第3四半期の稼働を目指します。その後はエコカー優遇制度（第2期）の要件に合わせて、エンジン機械加工工場の建設や生産能力を増強していく予定です。

SKYACTIV-D 1.5

クルマ・技術

「アテンザ」「CX-5」を大幅改良

12月

生産

メキシコ新工場の累計生産台数10万台を達成

操業開始以来11カ月の達成で、記念すべき10万台目の車両は、欧州向け「Mazda2」です。

累計生産10万台達成記念式典

2015年

1月

生産

タイの新トランスミッション工場で量産開始

新工場「Mazda Powertrain Manufacturing (Thailand) Co., Ltd.」で量産を開始した新型自動変速機「SKYACTIV-DRIVE」は、タイを含むグローバル生産拠点で、新型「Mazda2」や「Mazda3」、「CX-5」などに搭載されます。

2月

CSR

第18回環境コミュニケーション大賞「地球温暖化対策報告優秀賞」を受賞

環境報告書「マツダサステナビリティレポート2014」において、内燃機関の環境改善を戦略的重点課題に定め、具体的に取り組んでいることが特に高く評価されました。

クルマ・技術

先進のコンパクトクロスオーバーSUV「CX-3」を発売

3月

クルマ・技術

新型「ロードスター」、新型「CX-3」、新型「デミオ」が、世界で最も権威のあるデザイン賞のひとつ「レッド・ドット：プロダクトデザイン2015」を受賞

新型「ロードスター」は特に優れている工業製品に贈られる「ベスト・オブ・ザ・ベスト」に選ばれました。

5月

企業情報

トヨタ社とマツダ、業務提携に向け基本合意

環境技術、先進安全技術といった分野をはじめとし、「クルマの新たな価値創造」に向けた中長期的な相互協力を目指します。

クルマ・技術

新型「ロードスター」を発売

新世代商品の第6弾として、人がクルマを楽しむ感覚の深化に徹底的に取り組み、「人馬一体」の楽しさを追求した後輪駆動（FR）の2シーターライトウェイトオープンスポーツカーです。

新型「マツダ ロードスター」

「Be a driver.」という言葉に込めた、「走る歓びを究めたクルマをつくりたい」というマツダの想いー。
「SKYACTIV技術」とデザインテーマ「魂動（こどう）」を採用した主要商品ラインアップを紹介します。

「次の時代のスタンダードを創造する」先進のコンパクトクロスオーバーSUV

MAZDA CX-3

「次の時代のスタンダードを創造する」という志を掲げ、既成概念に捉われないクルマ造りに挑戦したモデルです。ディーゼルエンジンのノック音を抑制する新開発の「ナチュラル・サウンド・スムーザー」*を採用した「SKYACTIV-D 1.5」を搭載。また、先進安全技術「i-ACTIVSENSE（アイ・アクティブセンス）」や新世代カーコネクティビティシステム「Mazda Connect（マツダ コネクト）」など、最新装備を幅広く搭載しています。

スタイル	SUV／クロスオーバー
エンジン	ディーゼル：1.5L
燃費*1（JC08モード）	ディーゼル：21.0 ～ 25.0（km/L）
価格帯*2	237 ～ 302（万円）

ディーゼルノック音を大幅に低減する世界初の技術「ナチュラル・サウンド・スムーザー」*

日本市場向け「CX-3」に搭載する「SKYACTIV-D 1.5」に初採用された「ナチュラル・サウンド・スムーザー」*は、空洞のピストンピンに内蔵することでディーゼルノック音の原因である振動を吸収する技術です。特に発進時やゆっくりとした加速時などに車室内で聞こえやすい周波数3.5kHz付近のディーゼルノック音を、未装着車に比べて最大で10dB低減（マツダ調べ）し、市街地の走行シーンなどで高い静粛性とより気持ちの良いエンジン音を提供します。

* 一部仕様に設定

Mazda DEMIO

海外市場での車種名：Mazda2

スタイル	コンパクト	
エンジン	ガソリン：1.3L	ディーゼル：1.5L
燃費*1（JC08モード）	ガソリン：20.6 ～ 24.6（km/L）	ディーゼル：22.8 ～ 30.0（km/L）
価格帯*2	135 ～ 219（万円）	

Mazda AXELA

海外市場での車種名：Mazda3

スタイル	4ドアセダン／5ドアスポーツ	
エンジン	ガソリン：1.5L ／ 2.0L ハイブリッド	ディーゼル：2.2L
燃費*1（JC08モード）	ガソリン：17.8 ～ 19.6（km/L） ハイブリッド：28.0 ～ 30.8（km/L）	ディーゼル：19.6 ～ 21.4（km/L）
価格帯*2	176 ～ 306（万円）	

Mazda ATENZA

海外市場での車種名：Mazda6

スタイル	4ドアセダン／ステーションワゴン	
エンジン	ガソリン：2.0L ／ 2.5L	ディーゼル：2.2L
燃費*1（JC08モード）	ガソリン：16.0 ～ 17.4（km/L）	ディーゼル：18.2 ～ 22.4（km/L）
価格帯*2	276 ～ 396（万円）	

Mazda CX-5

スタイル	SUV ／クロスオーバー	
エンジン	ガソリン：2.0L ／ 2.5L	ディーゼル：2.2L
燃費*1（JC08モード）	ガソリン：14.6 ～ 16.4（km/L）	ディーゼル：18.0 ～ 18.4（km/L）
価格帯*2	244 ～ 348（万円）	

Mazda ROADSTER

海外市場での車種名：Mazda MX-5

スタイル	スポーツ
エンジン	ガソリン：1.5L
燃費*1（JC08モード）	ガソリン：17.2 ～ 18.6（km/L）
価格帯*2	249 ～ 314（万円）

その他車種情報についてはマツダオフィシャルサイトをぜひご覧ください。

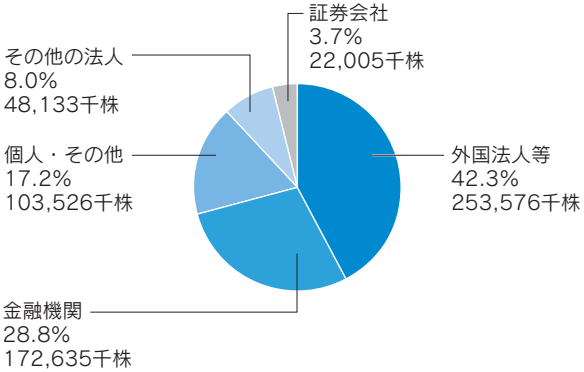
http://www.mazda.co.jp/

*1. 国土交通省審査値。燃料消費率は定められた試験条件での値です。お客様の使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコン使用時など）に応じて燃料消費率は異なります。
*2. 記載の価格はメーカー希望小売価格（消費税8%込。1万円未満は切り捨て）です。別途リサイクル料金が必要となります。

株式の状況（平成27年3月31日現在）

発行可能株式総数	1,200,000,000株
発行済株式総数	599,875,479株
株主数	150,386名 （前期末比33,199名増加）

所有者別状況

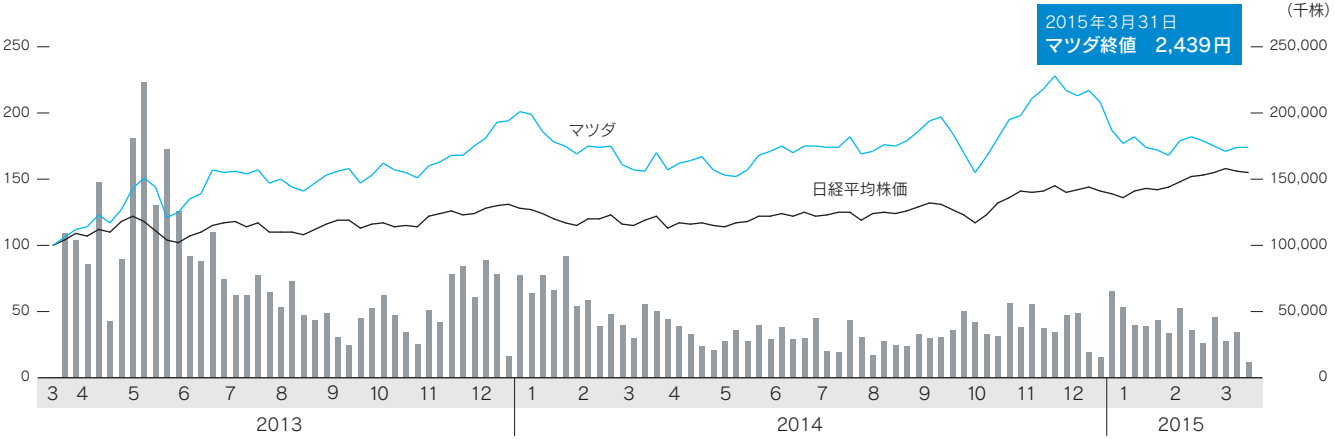


大株主

株主名	持株数（千株）	持株比率（%）
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社（信託口）	34,115	5.7
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社（信託口）	29,286	4.9
株式会社三井住友銀行	12,857	2.2
FORD MOTOR COMPANY ACCOUNT FOR MAZDA SECURITIES	12,462	2.1
CHASE MANHATTAN BANK GTS CLIENTS ACCOUNT ESCROW	9,317	1.6
三井住友海上火災保険株式会社	8,136	1.4
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE 15PCT TREATY ACCOUNT	7,540	1.3
SAJAP	7,105	1.2
STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234	6,983	1.2
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505225	6,390	1.1

（注）持株比率は、自己株式2,048,585株を控除して計算しています。

株価の推移（2013年3月末を100として指数化）



— マツダ　— 日経平均　■ 出来高（右軸）

（注）2014年8月1日付で、5株を1株とする株式併合を実施しています。

会社概要（平成27年3月31日現在）

商号	マツダ株式会社
設立	大正9年1月30日
資本金	258,957,096,762円
従業員数	連結：44,035名　単独：20,491名
主要な事業内容	乗用車・トラックの製造、販売等
本社	〒730-8670 広島県安芸郡府中町新地3番1号 電話（082）282-1111
東京本社	〒100-0011 東京都千代田区内幸町一丁目1番7号 電話（03）3508-5031
ホームページURL	http://www.mazda.com/ja/

取締役および監査役（平成27年6月23日現在）

代表取締役会長	金井　誠太
代表取締役	小飼　雅道
代表取締役	丸本　明
取締役	原田　裕司
取締役	中峯　勇二
取締役	稲本　信秀
取締役	坂井　一郎
取締役	城納　一昭
監査役（常勤）	栃尾　信義
監査役（常勤）	河村　裕章
監査役	赤岡　功
監査役	平澤　正英
監査役	堀田　隆夫

株主メモ（平成27年3月31日現在）

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会　毎年3月31日 期末配当　毎年3月31日 中間配当　毎年9月30日
公告方法	電子公告 http://www.mazda.co.jp/
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
・郵便物送付先	〒168-0063　東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
・電話お問合せ先	0120-782-031
・ホームページURL	http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html
単元株式数	100株
証券コード	7261

オフィシャルウェブサイトもご活用ください

「株主・投資家情報」

社長メッセージや決算資料、プレゼンテーション資料など、さまざまな情報を掲載しています。

http://www.mazda.com/ja/investors/

「CSR」

環境保全、社会貢献、安全への取り組み、サステナビリティレポートへのリンクなど、さまざまな情報を掲載しています。

http://www.mazda.com/ja/csr/

Mazda Motor Corporation

本誌は植物油インキを使用しています。

表紙掲載車種 新型「マツダ CX-3」